



阿品地区人権啓発推進協議会 戦後 80 年非核平和事業

いりとし 講演会：丸木位里・俊夫妻共同制作 《原爆の図》からよむ未来への伝言

広島出身(現広島市安佐北区安佐町飯室)の丸木位里と、その妻丸木俊(赤松俊子)の共同制作《原爆の図》は、1950 年から 30 余年にわたり 15 作品が描かれました。

水墨画家と油彩画家である二人は 原爆投下後に広島入りし、原爆の惨禍に直面したことで、共同制作に取り組みます。

はつかいち美術ギャラリーで7月27日(日)から8月17日(日)まで「丸木位里・丸木俊夫妻原爆の図ー被爆体験の継承」が開催されます。このたび、本展に併せて来甘される 原爆の図丸木美術館 学芸員岡村幸宣 氏を講師にお迎えし、美術作品を通して平和について考える機会を設けます。

二人が《原爆の図》に込めた想いとはどこにあるのでしょうか。私たちが作品に描かれた墨色と筆致から想いを受け取るための糸口を、丸木位里・俊研究の第一人者である岡村氏にご案内いただきます。

「生命の尊厳」「平和の大切さ」そして「過去からの延長線上である今を生き、未来へつなぐ」ことについて、地域の皆さんと一緒に あらためて考える機会になることを願っています。

丸木 位里(1901-1995)

1901 年 6 月 20 日に広島の太田川上流の船宿兼農家生まれ。戦前には前衛的な美術団体である歷程美術協会や美術文化協会に加わり、抽象やシュルレアリスム(超現実主義)を取り入れた独自の水墨画を発表して高い評価を受けた。1941 年に油彩画家の赤松俊子と結婚。1945 年に広島に原爆が落とされた時には、数日後にかけつけ、その様子を目撃した。やがて夫婦共同制作で《原爆の図》の制作に取り組み、30 年以上の歳月をかけて 15 部の連作を完成。その一方で風景を中心としたスケールの大きな水墨画を数多く残している。1995 年 10 月 19 日永眠、享年 94 歳。

丸木 俊(赤松 俊子)(1912-2000)

1912 年 2 月 11 日に北海道秩父別の善性寺生まれ。女子美術専門学校(現・女子美術大学)で油絵を学び、その後、モスクワ、ミクロネシアに滞在。油絵やスケッチを多数描き、二科展に入選した。1941 年に水墨画家の丸木位里と結婚。戦後は《原爆の図》をはじめ《南京大虐殺の図》、《アウシュビッツの図》、《水俣の図》、《沖縄戦の図》など 社会的 主題の夫婦共同制作を発表している。また、すぐれた絵本作家としても知られ、『ひろしまのピカ』、『つつじのむすめ』などの絵本は今も多くの人に読み継がれている。2000 年 1 月 13 日永眠、享年 87 歳。

日 時

令和7(2025)年7月28日(月) 10:00~11:30

無 料

場 所

阿品市民センター 大研修室 (廿日市市阿品二丁目23番8号)

講 師

原爆の図丸木美術館学芸員・専務理事 岡村 幸宣さん

対 象

どなたでも(小学校高学年以上推奨)

定 員

50名(事前申込者優先)

協 力

公益財団法人 原爆の図丸木美術館(埼玉県東松山市)

主催：阿品地区人権啓発推進協議会 共催：阿品市民センター

問い合わせ：☎ 0829-36-3630 (阿品市民センター)